

【 平成 29 年度事業報告 】

1 企画委員会、役員会、第 24 回総会、講演会の開催

1) 企画委員会の開催（委員、事務局等 10 名出席）

日時：平成 29 年 6 月 15 日（木）

場所：仙台ビジネスホテル 1 階会議室（仙台市）

第 24 回総会の議案（①平成 28 年度事業報告、②平成 28 年度収支決算報告、③規約の改正、④平成 29 年度事業計画（案）、⑤平成 29 年度収支予算（案）、⑥会員の状況について、⑦役員を選任について）、及び、平成 29 年度事業の具体的な考え方（セミナー、ニュース、講演会等）・『知』の集積関係事項、並びに、産学連携支援研究会の運営等に係る事項について検討を行った。

2) 役員会の開催（役員、事務局等 12 名出席）

日時：平成 29 年 6 月 29 日（木）

場所：TKP ガーデンシティ勾当台 カンファレンス 1（仙台市）

総会に先立ち、①第 24 回総会の議案、②研究会の運営等に係る事項について協議を行い、総会提出議案が了承された。

3) 第 24 回総会（出席者 35 名、委任状 24 名 計 59 名）

役員会に引き続き、第 24 回総会を開催した。

< 議事 >

- ① 平成 28 年度事業報告
- ② 平成 28 年度収支決算報告
- ③ 規約の改正について
- ④ 平成 29 年度事業計画（案）
- ⑤ 平成 29 年度収支予算（案）
- ⑥ 会員の状況について
- ⑦ 役員改選について
- ⑧ その他

審議の結果、提出した議案はすべて承認された。

4) 講演会（50 名出席）

総会に引き続き、記念講演会を行った。

始めに、吉永国際特許事務所所長 吉永 貴大氏から「アグリ知財とその活用が世界の農業と未来を変える！ 世界と戦うための農業ビジネス戦略と知的財産管理」と題し、日本の農業・食品産業が世界でその地位を築いていくためには、日本で育成した優れた品種・栽培法、さらには食品製造技術を知的財産として確保して、その戦略的な利活用システムを確立する必要がある、わが国の農業・食品産業の持続的な発展の立場から戦略的な知財管理の方向について分かりやすく講演して頂いた。

続いて、慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科助教 野崎 貴氏から「IoT の次に来る IoA の衝撃！ 人工知能内蔵型ロボットハンド（ハプティクス義手）で超高品質農業を創造」と題し、人工知能が大きな注目を集めており、農業分野では農業機械の自動走行、ドローンなどの ICT の活用が注目されている中で、ICT、IoT の次に来る

IoAの世界と、その応用の可能性を講演して頂いた。

講演会終了後に個別相談会を開催したが、野崎氏からハプティクス義手の実演が行われ参加者の相当数が参加し、活発な意見交換が行われた。また、吉永氏からも知的財産管理の個別相談に対しわかりやすく、丁寧な対応をして頂いた。

2 知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業

1) 技術交流展示会への参加

農林水産省の主催による「アグリビジネス創出フェア2017」（東京ビッグサイト）において、委託事業コンソーシアムとして出展し、産学連携支援事業における支援先の研究成果等を展示した。当研究会では、東北農業研究センターが開発したもち小麦品種「もち姫」を利用して開発した食パン、岩手大学が育成した大豆品種「貴まる」を利用した納豆とおぼろ豆腐のPRと試食を行い、その評価情報を集めた。その他にも、東北農研がTN法として開発し、東京農大でシステム開発が行われた「合意形成支援システムBUMOC」、福島県農業総合センターが開発した「スマートフォン(Android機)用の角度警告・転倒通報アプリ」、東北農研が開発した「ネットワークカメラやtwitterを利用したスマートフォンでの施設の遠隔監視システム」などのパネル展示を行って来場者に説明した。

2) セミナーの開催

農業が地域創生の中核となるために、異なる分野の革新的な発想や先端技術を活用して、東北地域で技術革新や農業ビジネスに取り組むための機会を農林水産・食品産業関係者に提供するためのセミナー等を9回開催した。

また、農林水産・食品産業関係者に対して、技術革新や農業ビジネスに自ら取り組むための「勉強会」を4回開催した。

①平成29年度第1回「ダイズ『貴まる』研究会」

日時：平成29年4月20日（木） 10:00～12:00

会場：八幡平市立松尾コミュニティーセンター（八幡平市野駄第7地割220番地）

次第：

1. 話題提供と協議事項

1) 平成28年度「貴まる」の収量、検査結果について

生産者、アグリ管理士 古川 佑史 氏

農林水産省産学連携支援コーディネーター 佐川 了

2) 平成29年度「貴まる」の加工販売計画について

ふうせつ花 代表取締役 石田 秀悦 氏

3) 平成29年度「貴まる」栽培面積の確認・調整

農林水産省産学連携支援コーディネーター 星野 次汪

4) 種子の配布と取り扱いについて

農林水産省産官連携支援コーディネーター 星野 次汪

岩手大学農学部FSC滝沢農場 技術専門職員 武田 伸也 氏

5) 播種時期と播種および播種後の管理について

岩手大学農学部FSC滝沢農場 技術専門職員 武田 伸也 氏

2. その他 適期収穫対策について

結果：「岩手大学開発ダイズ品種『貴まる』を活用した八幡平市における地場産品開発への取組み」をテーマとして開催した。商品化・事業化支援により、豆腐について、4月下旬に一部地域で店頭販売が開始された。（参加者10名）

②東北食農連携ネット（FACNeT）講演会

日時：平成29年6月29日（木） 14:10～17:00

会場：TKPガーデンシティ仙台勾当台 ホール5（仙台市青葉区国分町3-6-1）

次第：

1. 講演

- 1) アグリ知財とその活用が日本と世界の農業の未来を変える！

「世界と戦うための農業ビジネス戦略と知的財産管理」

吉永国際特許事務所 所長 弁理士 吉永 貴大 氏

- 2) IoTの次に来るIoA「ハプティクス」の衝撃！

「人工知能内蔵型ロボットハンド（ハプティクス義手）で超高品質農業を創造」

慶應義塾大学ハプティクス研究センター 助教 野崎 貴裕 氏

2. 相談会

講師との知財及びロボット技術に関する相談会

結果：講演会終了後に個別相談会を開催した。野崎氏からハプティクス義手の実演が行われ参加者の相当数が参加し、活発な意見交換が行われた。吉永氏には、知的財産管理の個別相談に対しわかりやすく、丁寧な対応をして頂いた。（参加者50名）

③平成29年度第2回「ダイズ『貴まる』現地勉強会」

日時：平成29年8月1日（火） 9:30～11:30

会場：八幡平市松尾地内、荒木田地内圃場（八幡平市松尾地内、荒木田地内）

次第：

1. 平成29年度「貴まる」栽培の耕種概要について

農林水産省産学連携支援コーディネーター 佐川 了

2. 平成29年度「貴まる」加工販売状況について

ふうせつ花 代表取締役 石田 秀悦 氏

岩手大学三陸復興・地域創生連携機構 佐々木 靖人 氏

3. 平成29年度栽培管理の状況について

栽培者 古川 佑史 氏、山本 正雄 氏

4. 今後の展開と栽培状況について

農林水産省産学連携支援コーディネーター 星野 次汪

岩手大学滝沢農場 武田 伸也 氏

5. 意見交換、情報交換

結果：地域の指導者的農業経営者である八幡平市の古川佑史氏および山本正雄氏の圃場にて「貴まる」研究会の現地勉強会を行った。勉強会はコーディネーターを含め8名の参加で行い、上記次第に基づいて、本年の栽培状況と今後の対応、商品の加工販売状況と今後の対応について、栽培現地において報告と意見交換、質疑応答を行った。

④平成29年度第3回「ダイズ『貴まる』現地勉強会」

日時：平成29年9月27日（水） 13:30～16:00

会場：八幡平市松尾地内及び荒木田地内圃場、株式会社ふうせつ花（八幡平市松尾地内、荒木田地内）

次第：

1. 平成29年度「貴まる」栽培耕種概要および平成28年度生育・収量状況

農林水産省産学連携支援コーディネーター 佐川 了

2. 収穫・調整の留意事項について ～等級検査の観点から～

JA新岩手八幡平営農経済センター センター長 高橋 正 氏

3. 八幡平市の取り組み

岩手大学三陸復興・地域創生連携機構 佐々木 靖人 氏

4. 意見交換、情報交換

結果：生産物の品質検査（等級検査）を担当するJA新岩手の地域責任者を招き、収穫・調整の留意事項について指導頂くと共にダイズ品種「貴まる」と栽培者の取り組みについて紹介した。また、「貴まる」製品の加工販売を行っている地元企業である（株）ふうせつ花にて販売状況を確認し、今後の展開に関して意見交換を行った。（参加者8名）

⑤セミナー「地方活性化・食の多様性を創造する女性経営者の集い -inいわて」

日時：平成29年11月10日（金） 10:00～15:00

会場：農研機構 東北農業研究センター 北辰興農閣（盛岡市下厨川字赤平4番地）

次第：

1. 東北農研女性研究者、岩手県内の女性農業経営者のチャレンジ紹介

○東北農研女性研究者

池永 幸子 氏（麦育種）、平田 香里 氏（大豆育種）、佐藤 百合香 氏（産学連携）

○岩手県内の女性農業経営者

- ・盛岡型農業体験農園づくり 大下 信子 氏
- ・黒平豆で地域おこし 山本 早苗 氏
- ・未来の女性農業経営者を夢見て 大船渡東高校
- ・ブルーベリーの6次産業化 奥寺 恵理子 氏
- ・観光ワラビ園と農産加工で地域に活力を 高橋 医久子 氏
- ・食と癒しの空間形成 田村 恵 氏

2. 参加者が開発した逸品を試食評価

3. ワークショップ（女性農業経営者の活躍の場と支援方向を皆で提案）

結果：東北農研の女性研究者の研究の取り組みを紹介すると共に、岩手県内各地で活躍している女性経営者6人と未来の女性経営者を夢見る高校生に参加頂き、その取り組みの思いと内容を熱く語って頂いた。

また、彼女らの取り組みに対して、行政、研究、農産加工・直売、さらには販売面から専門アドバイザーによるアドバイスを頂いた。さらに、東北農研や岩手農研が開発した米や麦の新品種、参加した女性経営者が開発した食品等、16品目の試食評価を行った。午後からは、参加者全員で3グループ（6次産業化グループ、地域づくりグループ、観光・交流グループ）に分かれて、それぞれの活動が抱える問題、将来の夢をワークショップ形式でまとめた。

参加者は約50人で、女性研究者、女性経営者の話を聞くだけでなく、自らワークショップに参加し、活動している中で出会った、もしくは現在抱えている問題を率直に出すと共に、お互いの取り組みや将来の夢を語った。

⑥先端技術による浜通り地域の大規模水田経営支援セミナー

日時：平成29年11月20日（月） 13:30～15:30

会場：福島県環境創造センター環境放射線センター 大会議室（福島県南相馬市原町区萱浜字巢掛場45番地169）

次第：

1. 「宮城県津波被災地におけるプラウ耕鎮圧水稻乾田直播を核とした水田輪作営農」

（国研）農研機構 東北農業研究センター 生産基盤領域長 大谷 隆二 氏

2. 「巨大区画圃場における収量コンバイン等センシング技術を用いたICT農業」
（国研）農研機構 東北農業研究センター 生産基盤領域 上級研究員
関矢 博幸 氏
 3. 「浜通りにおける水稻乾田直播栽培確立の取り組み」
福島県農業総合センター 浜地域研究所 副主任研究員 菅野 拓朗 氏
 4. 「先端農林業ロボット研究開発事業の取り組み」
福島県農業総合センター 作物園芸部 稲作科 科長 吉田 直史 氏
 5. 「新たなブロッコリー栽培技術の取り組み」
福島県農業総合センター 浜地域研究所 研究員 門田 敦生 氏
- 結果：東北農研の研究成果と福島県農業総合センターの関連する研究成果を広く結集して、福島県浜通り地域の復興を支える大規模水田作経営の育成と支援を目指したセミナーを実施した。幸いにも生産者、関係機関の多くの方々に興味を持って頂き、当日は約100名が参加し、津波被災地域の農業復興のための技術開発の方向性について有意義な情報提供と論議が行われた。

⑦平成30年度競争的研究資金への応募に向けた個別相談会（第1回）

- 日時：平成29年12月19日（火） 10:00～17:00
会場：農研機構 東北農業研究センター B棟2階会議室および東北ハイテク研究会事務局（盛岡市下厨川字赤平4）
次第：個別相談（農林水産省産学連携支援コーディネーター等により、提案予定者に対し指導・助言を実施）
結果：民間企業、大学、国立研究開発法人からの個別相談4件に対応した。

⑧平成29年度岩手大学附属SPERC農林水産ロボティクス研究グループ講演会「食品産業におけるイノベーション事例」

- 日時：平成30年1月19日（金） 16:30～18:00
会場：岩手大学復興祈念銀河ホール（盛岡市上田4-3-5）
次第：
馬場 良雄 氏（元・株式会社明治 取締役常務執行役員、芝浦工業大学大学院特任教授）による講演
1. MOTとイノベーション
 2. 食品産業におけるイノベーション事例 ～イノベーションを起こした・起こせた要因の考察～
 3. 新設備導入における失敗事例

結果：株式会社明治での取り組み事例をもとにイノベーションを生み出した要因の説明・解説が行われた。参加者の半数近くは企業経営者で、講演内容が日ごろ感じている問題解決のアドバイスになることも多く、質疑応答も活発に行われた。（参加者35名）

⑨平成29年度第4回「ダイズ『貴まる』現地勉強会」

- 日時：平成30年1月22日（月） 10:30～12:00
会場：八幡平市立松尾コミュニティーセンター（八幡平市野駄第7地割220番地）
次第：
1. 検討会
- 1) 平成27-29年度「貴まる」生産の取り組み
農林水産省産学連携支援コーディネーター 佐川 了
 - 2) 大豆「貴まる」の栽培に挑戦して
山本 正雄 氏、アグリ管理士 古川 佑史 氏

- 3) 「貴まる」栽培・管理作業上の留意点
FSC 技術専門職員 武田 伸也 氏
- 4) 「貴まる」商品の販売状況について
ふうせつ花 代表取締役 石田 秀悦 氏
- 5) 「貴まる」の納豆、豆腐の食味評価
農林水産省産学連携支援コーディネーター 星野 次汪

2. 試食検討会

結果：「岩手大学開発品種ダイズ『貴まる』を活用した八幡平市における地場産品開発への取組み」をテーマとして開催した。本年度の生産概要と生産物による試食・検討、平成27～29年度の3ヶ年の活動の取りまとめ等を行った。（参加者12名）

⑩イノベーション創出強化研究推進事業への応募説明会

日時：平成30年1月22日（月） 16:00～18:00

会場：岩手大学 農学部 3番講義室（盛岡市上田18-8）

次第：

1. 門間東北ハイテク研事務局長による「知の集積と活用場によるイノベーション創出事業とプラットフォーム形成の目的」の説明と質疑討論
2. 星野東北ハイテク研中核CDによる、競争的資金事業への応募の留意点と採択に向けての申請書類の書き方の説明と質疑討論

結果：参加者の関心は高く、多数の質問があり、講師を務めた事務局長、コーディネーターが回答した。（参加者8名）

⑪平成29年度産学官連携セミナー（農林水産省における「農林水産技術会議事務局研究資金」に係る事業・公募の説明会）

日時：平成30年1月25日（木） 13:00～18:00

会場：TKPガーデンシティ仙台勾当台 3階 ホール3（仙台市青葉区国分町3-6-1 仙台パークビル）

次第：

1. 講演「イノベーション創出のための農林水産・食品産業分野の産学連携による共同研究・事業への対応」
東北大学 教授、名誉教授 宮澤 陽夫 氏
2. 農林水産省における「農林水産技術会議事務局研究資金」に係る事業・公募説明会
 - 1) 「イノベーション創出強化研究推進事業」の概要について
 - 2) 「生産性革命に向けた革新的技術開発事業」の概要について
 - 3) 「革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）」の新規公募の概要について
 - 4) 「戦略的プロジェクト研究推進事業」の概要について
 - 5) その他

3. 個別相談会

結果：「知の集積と活用場」の競争的研究資金を獲得している宮澤陽夫東北大学教授から研究プラットフォームや研究コンソーシアムの構築および運営の仕方について講演があった。

続いて、農林水産省における平成30年度・平成29年度補正予算に係る競争的研究資金制度について農林水産技術会議事務局担当者より説明があった。その後、平成30年度から新たに始まる「イノベーション創出強化研究推進事業」について活発な質疑討論が行われた。

さらに、公募事業申請に関わる個別相談会を農林水産省産学支援コーディネーター等が参加して行った。当日の相談件数は10件であった。（参加者80名）

⑫産学連携セミナー「『知の集積と活用』の研究開発プラットフォームと研究コンソーシアムの設立・運営をどうするか」

日時：平成30年3月12日（月） 15:00～17:30

会場：農研機構 東北農業研究センター 北辰興農閣（岩手県盛岡市下厨川字赤平4）

次第：

1. 「科学的根拠に基づく高付加価値日本食・食産業研究開発プラットフォームの運営・管理の特質と課題」
東北大学大学院農学研究科 特任講師 竹岡 芳成 氏
2. 「キッコーマンの国際戦略・産学連携・研究開発のイノベーション」
キッコーマン株式会社 研究開発本部長 松山 旭 氏
3. 意見交換

結果：東北大学の研究開発プラットフォームと2つの研究コンソーシアムを支えている竹岡芳成講師と、農林水産省の「『知』の集積と活用」の立ち上げに重要な役割を果たすと共に、産学官連携協議会の理事・運営委員長を務め、さらにはキッコーマンの研究開発本部長として指揮をとっている松山旭氏に講演をお願いした。

講演後に講演者と参加者との間で、研究開発プラットフォームに関して、①組織運営から判断した適正な規模、②運営資金の確保の方法、③農林水産事業者の参加を促すための方法や現在の産学官連携協議会運営上の課題について活発な討論が行われた。（参加者34名）

⑬セミナー「地域創造をめざすチャレンジャーの取り組みと多様な研究シーズの出会い」

日時：平成30年3月27日（火） 12:00～16:45

会場：農研機構 東北農業研究センター 北辰興農閣（盛岡市下厨川字赤平4）

次第：

1. 第1部 逸品交流会
参加者が開発もしくは地域自慢特産品の試食評価
2. 第2部 産学連携のネットワークを広げる
 - 1) 「今、麦・大豆・高アミロース米が面白い」
星野 次汪（岩手大学名誉教授 東北ハイテク研コーディネータ）
 - 2) 「東北農研には面白い品種がいっぱい」
佐藤 百合香 氏（東北農研 産学連携室長）
 - 3) 「低アミロース米の利用可能性」
小舘 琢磨 氏（岩手県農業研究センター 技術部作物研究室）
 - 4) 「盛岡型農業体験農園づくりにチャレンジ」
大下 信子 氏（ファーマンラボ代表）
 - 5) 「米粉麺にチャレンジ」
金野 弘美 氏（農事組合法人となん）
 - 6) 「『ゆきちから』で盛岡そうめんをつくる米粉麺にチャレンジ」
藤村 勉 氏（農事組合法人 FS・クルー 代表理事）
 - 7) ネットワーク拡大の意見交換
3. 第3部 地域農業の担い手の夢の実現戦略 -アグリ管理士からの提言
 - 1) 「スマート農業とFFC農法米で集落農業を活性化」
佐々木 昭英 氏（矢巾町アグリ管理士）

- 2) 「農協女性部の活動から地域のイノベーションを目指す」
阿部 美智子 氏（花巻市宮野目女性部代表 アグリ管理士）
- 3) 「65歳からのむらおこし」
鈴木 武男 氏（花巻市横志田地区 アグリ管理士）
- 4) 「都市化地域の農と農地を守る」
海老澤 愛 氏（滝沢市農業委員会 アグリ管理士）
- 5) 「久慈市山根地区の活性化を目指して」
清水 勇 氏（久慈市地域おこし協力隊）
- 6) 意見交換 -夢の実現に向けて

結果：地域創造にチャレンジする参加者は、研究機関の研究成果の活用に対する高い関心を示し、その利活用について熱心な討論が行われた。また、チャレンジャーの方々による多様な分野の地域創造戦略計画の提案に対しては、専門家の立場から適切なアドバイスが行われ、今後の地域創造の方向性と、開発が求められる技術の内容の相互理解が高まるセミナーであった。（参加者25名）

3) 産学連携支援事業

以下の①～⑤に示す支援業務のため、生産者、民間企業、大学、農研機構研究機関、公設試験場、産学連携機関、生産者団体、行政機関等の担当者に対して、訪問、面談、メール・電話等の活動を行った。その実績は以下のとおりである。

・訪問、面談、メール・電話対応の件数の推移

活動形態	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	8	14	8	13	3	16	17	7	7	10	6	8	117
面談	1	0	3	1	1	1	1	0	6	12	1	1	28
メール・電話	2	2	2	1	1	0	0	3	0	0	3	0	14

・訪問、面談、メール・電話対応の機関種別実績

活動形態	民間		大学		国研・独法		公設試		産学連携機関		生産者団体	行政機関		その他		計	
	異分野		異分野		異分野		異分野		異分野			異分野		異分野			
訪問	34	1	27	8	2	0	6	0	1	0	25	16	0	6	0	117	9
面談	9	0	11	0	3	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	28	0
メール・電話	5	0	3	1	3	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	14	1

①ニーズ・シーズの収集・提供

訪問等の活動により収集した研究開発・事業化に関するニーズの一例は以下のとおりである。

	機関	分野	ニーズの内容
1	民間企業	食品	もち小麦を利用した新たな商品の開発
2	生産者	食品	もち小麦を利用した特産品開発
3	民間企業	食品	こだわり大豆製品の開発
4	生産者団体	農業	高アミロース米の生産
5	生産者団体	農業	水稻の乾田直播技術

訪問等の活動により収集した研究開発・事業化に関するシーズの一例は以下のとおりである。

	機関	分野	シーズの内容
1	国研	農業	もち小麦品種（もち姫）
2	大学	農業	ダイズ品種（貴まる）
3	国研	農業	春タマネギ栽培
4	公設試験場	農業	高アミロース米
5	国研	農業	水稲乾田直播技術

②マッチングの支援

支援活動の結果、マッチングに至った事例は以下のとおりである。

・事例①

コーディネーターによる参画機関の調整・支援により、「盛岡地方もち小麦の郷づくり研究会」が発足するとともに商品開発の取り組みが実践された。

・事例②

高アミロース米による冷麺の試作に関して、生産グループと企業をマッチングさせるとともに、試作品の製作などを支援した。

③研究開発資金制度の紹介等

・事業化可能性調査の実施

研究開発資金への申請を前提として、JATAFFの事業化可能性調査資金を活用して、以下のような活動を実施した。

・課題①「イノベーション育種技術（接ぎ木によるエピゲノム編集体獲得法）実用化のためのワークショップの開催」

関係機関：民間企業3、大学1、国研1、公設試1

活動内容：2回の事前協議の後、提案応募に向けた討議を行い実施計画書作成の支援を進めた。

結果：平成30年度イノベーション創出強化研究推進事業に申請し、一次審査を通過した。

・課題②「福島津波・放射能被災地域の新たな水田農業創造のための研究ニーズとシーズマッチングのための基礎調査及び現地シンポジウムの開催」

関係機関：国研1、公設試3、行政機関1。

活動内容：大規模水田作経営確立に向けた研究シーズ紹介のためのセミナーを開催するとともに、実証試験参加農家決定のための現地調査を実施した。この研究は、農水省の研究助成事業の平成30年度「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」に採択された。

・研究開発資金の取得支援

研究開発資金の取得支援を行った実績は以下のとおりである。

○平成30年度イノベーション創出強化研究推進事業（支援件数15件）

- ・基礎研究ステージ 申請件数3件、一次審査通過1件
- ・応用研究ステージ 申請件数7件、一次審査通過3件
- ・開発研究ステージ 申請件数3件、一次審査通過2件

○平成30年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業（支援件数3件）

- ・採択1件

○いわて農商工ファンド（支援件数1件）

- ・採択1件

④商品化・事業化の支援

ア) 研究支援者等の活動

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業等においては、それら事業への獲得支援を行い、採択された課題については、コーディネーターが研究支援者あるいはアドバイザーとして研究グループに携わり、商品化・事業化に向けた支援を継続した。本年度、支援した課題は以下のとおりである。

	事業名	採択	課題名	代表機関
1	農食研究 推進事業	27年度	豚排泄物由来肥料を最大限活用した飼料用米の 多収栽培技術の開発	農研機構 東北農業研究セン ター
2	農食研究 推進事業	27年度	半炭化処理による高性能木質舗装材の製造技術開発	森林総合研究所
3	農食研究 推進事業	28年度	多獲性魚類加工のためのロボットシステムの開発	岩手大学
4	革新的技術 開発・緊急 展開事業	28年度	サンマ蒲焼缶詰を事例とした計量・充填作業における 熟練作業者ノウハウの人工知能化	岩手大学
5	革新的技術 開発・緊急 展開事業	28年度	国産リンゴ及び加工品の高付加価値化を促進するため の健康機能性評価技術及び機能性表示食品の開発	農研機構 果樹茶業研究部門
6	農食研究 推進事業	29年度	膨張剤を利用した樹木伐採ロボットの開発	岩手大学

イ) 商品化・事業化の支援

支援活動の結果、商品化・事業化に至った事例は以下のとおりである。

・事例①「ダイズ麦『貴まる』を用いた商品開発」

貴まるダイズ研究会に、こだわり納豆・豆腐の製造販売会社A社が参加し、その商品化について助言・支援を行ってきた。その結果、本年度にこだわり豆腐とこだわり納豆が商品化された。

・事例②「地場産小麦を利用した商品開発」

地場産小麦を利用した商品開発を進めるため、企業による「いわて農商工ファンド」の獲得を支援し、採択された。引き続き、パン製造の取り組みを支援し、県産100%食パンが4月から試験販売されることとなった。

・事例③「もち小麦『もち姫』を利用した商品開発」

「もち姫」を核とした地域農業・食品産業の活性化を目指した「盛岡地方もち小麦の郷づくり研究会」の結成を支援した。同研究会では小麦製品発表会を行い、製品化する商品の選定を行った。

・事例④「高アミロース米を利用した商品開発」

高アミロース米による冷麺の試作に関して、八幡平市の「高アミロース米生産グループ」と製麺企業のマッチングを行った。また、同生産グループによる高アミロース米によるパスタ・ピザの試作についても支援を行っている。これらの試作結果を元に製品化を探ることとなった。

⑤協議会の研究開発プラットフォームへの支援等

プラットフォーム間の連携や統合を視野に入れ、以下のような活動を実施した。

・事例①

岩手大学A教授より、プラットフォーム設立について1月中旬に相談されたが、設立までには至らなかった。

・事例②

岩手大学B教授から、4月から岩手大学アグリイノベーションセンターを設立するにあたって、本協議会の研究開発プラットフォームを立ち上げることによる効率的な運営などについて相談され、たたき台を提案した（3月）。

・事例③

「特産作物の技術開発による高度利用プラットフォーム」（情-22）の設立にあたって、コンソーシアムの構成、統合などについてアドバイスをを行った。

⑥東北地域コーディネーター会議の開催

日 時：平成30年3月12日（月）13：30～17：30

場 所：農研機構 東北農業研究センター 研究H棟 小会議室

参加者：13名（コーディネーター9名、東北農研、東北ハイテク研事務局）

始めに事務局から①平成29年度活動報告、②平成30年度予算説明、③新たな競争的研究資金について説明を行い、コーディネーター活動について意見交換を行った。引き続き、産学連携セミナー「『知の集積と活用の場』の研究開発プラットフォームと研究コンソーシアムの設立・運営をどうするか」に参加した。講演後、研究開発プラットフォームに関して活発な自由討論が行われた。